



ひとりにはしない  
子育て・  
介護

## 世田谷・生活者ネットワーク 高岡じゅん子

### 平和と環境を守り 暮らしの視点で福祉を充実

世田谷区の平均世帯人数は2人以下、1人世帯が最多となり、病気、高齢化、出産など人生の節目で区民を支える区の役割は大きくなっています。生活の声を区政に活かし、子育てや介護をひとりにはしないくみを地域に作ります。必要な人に必要な支援が届き、性別等や年齢、国籍、障がいの有無などで差別されることの無い世田谷を目標に区政に取り組みます。

足元から格差を減らし、平和で安全な世界に向け活動します。女性の視点を活かした災害対策を進めます。環境カウンセラーとしての経験を活かし、生きるに不可欠な水や空気と食の安全、ごみ問題や自然エネルギー活用推進などにも取り組みます。

高岡 じゅん子

#### Profile-プロフィール-

- 1960年 渋谷区生まれ
- 1978年 立教女学院高等学校卒業
- 1982年 筑波大学 第2学群 比較文化学類卒業
- 1982～85年 ㈱ワコール  
インテリアファブリック事業本部勤務
- 1994年～ 世田谷区羽根木在住
- 2009年 23区南生活クラブ生協理事
- 2011年 世田谷区議会議員初当選
- 2015年 世田谷区議会議員2期目当選、区民生活常任委員、  
災害・防犯・オウム問題対策等特別委員
- 2017年～ 福祉保健常任委員、オリンピック・パラリンピック・  
環境対策等特別委員

【家族】夫、息子2人

【資格】環境省登録環境カウンセラー、宅地建物取引士

【趣味】読書、手芸、自然観察

# 高岡 じゅん子

世田谷区議会議員



## 高岡じゅん子さんを応援します!



中川 李枝子  
児童文学作家



西崎 光子  
東京・生活者  
ネットワーク代表/  
前都議会議員



大原 雅子  
衆議院議員/東京・  
生活者ネットワーク  
元都議会議員



保坂 展人  
世田谷区長

三浦 まり 上智大学法学部教授

林 泰義 まちづくりプランナー

土谷 雅美 生活クラブ生協東京理事長

### 3 生活者ネットワーク つのルール

① 議員は交代制  
(ローテーション)

② 議員報酬は市民の  
政治活動資金に

③ 選挙はカンパと  
ボランティアで

世田谷・生活者ネットワークは、『ひとりにはしない  
子育て・介護』をスローガンに、身近な地域から、  
市民とともに政治を変えていきます。



# 高岡じゅん子の8つの提案

世田谷・生活者ネットワーク

## 多様性を認めあうジェンダー平等社会を実現する

- 性暴力・犯罪被害者などの相談・支援体制をつくる。
- 手話の普及と利用促進のための条例や障害者権利条例をつくる。
- ワーカーズ・コレクティブなど多様な働き方ができるように支援する。



地元の駅前で行った街宣活動▶

## 情報公開を促進し、議会を市民にひらく



- 公文書管理条例をつくり、区政の透明性を高める。
- 大事なことは市民が決めるために、自治基本条例、住民参加条例をつくる。

▼長野でソーラーシェアリングを視察



## 憲法を活かし、地域から平和を発信する



- 「世田谷未来の平和館」を活用する。
- 「日本国憲法」を守り、平和人権教育をすすめる。

## 介護と医療の連携で、安心の地域の暮らしをささえる



- 子ども・高齢者・障がい者など多世代の居場所として空き部屋を活用する。
- 家族介護が孤立しないように、ケアラー（介護者）支援条例をつくる。
- 生活全般を含めた相談支援の場所「暮らしの保健室」をつくる。

## 子どもの権利を尊重し、子どもがのびやかに育つ地域をつくる

- 区立の児童相談所を開設し、子どもの一時保護や里親への支援体制などを整備する。
- 貧困による格差をなくすため、学習支援や給食費などを無償化する。
- 男性の育児休暇取得を奨励し、男性の育児時間を増やす。



▲平和と立憲主義を守るため国会前に

## 防災・減災対策は福祉・環境優先で!



- 液体ミルクの備蓄やプライバシーに配慮した避難所を各地域につくる。
- 雨水の地下浸透・循環利用など、グリーンインフラのまちづくりを実現する。
- 通学路は、子ども目線で点検し改善に活かす。

▼防災井戸を使ってみる体験活動



## 原発ゼロ、自然エネルギー活用をすすめる



- 本庁舎などの公共施設の建て替えについては、環境性能を向上させる。
- プラスチックごみの焼却を減らし、分別と使用抑制をすすめる。
- 香害などを引き起こす化学物質対策を子ども基準で行う。

## 命の源である食と農を守る



- 地産地消をすすめ、都市農業と農地を守る。
- 障がい者の就労や活動の場として、農福連携を図る。
- 公共施設での石けん利用をすすめる。



▲道端のナタネの遺伝子組み換え調査▲